



薫小だより

「気づき・考え・行動する 薫の子」



郡山市立薫小学校

学校便り No.25

令和6年 1月19日

文責：校長 齋藤和彦

現職教育（授業研究会）

『もっともっとよい授業が作れるはずだ』

夢中になったとき、子どもは発熱する。～おしりが、いつの間にか椅子から浮き上がって話し出す。話に聴き入ると..ぽかんと口が開く。学びのスイッチがONになった証拠です。その表情も魅力的です。

今年度も薫の先生は、年間を通して学級を開き・授業を見合い、そして、互いのよさを吸収し合ってきました。(これを授業研究[研修]といいます)

『もっと、わかった笑顔をふやせるはずだ』

『もっともっと、よい授業が作れるはずだ』

授業研究には、答えもゴールもありません。

日々の授業がしっかりできれば、学級は崩れません。

日々の授業がしっかりできれば、子どもは迷いません。

この しっかり..が、なかなか難しいのです。

私達は、子ども達（一人残らず）を満足させる授業（=学び方）を求めて、『もっとよい授業ができる』ための力量を磨き..互いに学び続けてきました。【これは教師の仕事の根幹でもあります】

今年度の薫全職員の取組の概略を右枠に紹介します。

◆【薫小ホームページ】にて“授業研究会”として随時お伝えしてきたものです。



<研究テーマ（めざす子どもの学ぶ姿）>

「自らの考えを伝え・深め、確かな学力を身につけていく子どもの育成」

～ICTを効果的に活用した授業づくりを通して～

薫の子ども達の学び方の実態を分析して..もっと伸びる可能性を引き出す授業は、どうあればよいか。～授業の中で自分の考えを伝え合い、わかり合うことができる学びをめざして、全学級が授業改善に取り組んできました。

子どもの「確かな学び」を支え促す教師の効果的な指導方法:授業づくりを整理する過程で次のような学びの姿も見えてきました。

- ・特別支援：「わかる/できる/楽しい学び」
Point は、一人ひとりに応じた学び方で..
- ・低学年：「学ぶ楽しさを味わう」
Point は、できたことを先生にほめられて..
- ・中学年：「多様な学び方を学ぶ」
Point は、友だちとのかかわりから..
- ・高学年：「問題解決：学習の一人立ち」
Point は、これまでの学びを駆使して..

今後も、子ども達の学びの成長に寄り添いながら、学ぶ楽しさをたっぷりと味わった子が..ペアやグループの学びを通して多くの学び方を習得し..自分の力で解決し自立した学習に向かう姿勢を育てていきたいと考えています。



◆◆ 校長室より ◆◆ ～担任の先生は「任期1年に全力をつくします」～

新年度を前に...
この時期になると
思い出す出来事です



(ある学校で) 新年度..4月..。3階5年教室の掲示物が破られている..ということが続きました。高学年の荒れ...の兆候? 学級編制替での友人関係の配慮不足...? 「いったい誰が...?」と、高学年ブロックや生徒指導部では事態把握や指導対策に頭を悩ませました...が、不明...。ある日の放課後...2年生の女の子が3階ろうかでチョウや菜の花の掲示をさわっていたそうです。(静かな印象のがんばり屋さんでした) ~菜の花の掲示は、また破れていました。その子を前年度担任した先生は、女の子と話しながら、「先生が、お別れをちゃんとしなかったから...ごめんなさい。」と、女の子と一緒に教室で泣いたそうです。大好きな先生と、2年生でも一緒に勉強できると思っていたのに、4月に登校したら...。~5年生の子に囲まれて笑顔で校庭を走る先生をどんな気持ちで見ていることでしょうか。だれも、この女の子を責めることはできませんでした。(もちろん前担任の先生のこと)

子どもたちとのあたたかく..熱く..濃い..担任関係が一旦解除され、新しい年度へ進級・進学する子どもたち。目の前の子どもたちとのよりよい時間（よりよい授業を）を過ごすために日々、研究・工夫・改善を図りながら、積み重ねてきた学級ルール（指導法）を“一般化”という視点で振り返る時期となりました。

楽しかったこの1~2年間の担任の先生との学級約束を見直す時期です。どんな学級でも通用する指導に..。授業者が誰であっても通用する学習規範に..。どんな場面でも通用する社会性の一般化を意識して。

《 修・卒業まで... あと42日間~ “新年度につなぐ指導の時期” となりました。 》